

高岡市立太田小学校 (明治6年(1873)～)

太田小学校校歌



校歌

作詞 古屋利之
作曲 元木保三

大師が岳の動きなき
 姿を空に仰ぎつつ
 有磯の海の潮の香と
 浴びていそしむ
 わが友ぞ

むすびの家の字に余に
 遠つ親よりうけつぎし
 さやけくあかき心して
 伸びに伸びゆく
 身の幸よ

(昭和十年九月制定)

校歌に歌い込まれた願い

本校は昭和初期の教育理念として、日本本来のものに教育をむすび直したいという理想を主軸に「むすびの教育」という児童の体験に重きをおいた「労作教育」や「郷土教育」を取り入れた特色ある教育を行っていた。校歌に出てくる「むすびの家」というのは、みんな仲良く手を取り合い、誰も彼もみんな立派になる家(学舎)という意味である。そういった家をつくること、また、家の人になることは、いつまでも変わらない大事なことであるという思いから作詞された。

校章



太田には、その昔源義経が兄頼朝に追われて奥州へ向かう途中当地にさしかかり、大雨が降ってきたため、弁慶が大岩を持ち上げて主従に差しかけ、晴れるのを待ったという言い伝えがある。本校の校章は、旧くは桜の紋様の中に「太田」の字を記したものであったが、昭和33年に見直され、清和源氏ゆかりの紋所「ささりんどう」に「小」の字を象った姿となった。和と創造をはぐくむ本校の象徴となっている。

校名の由来

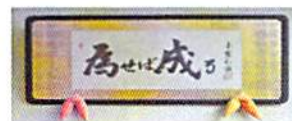
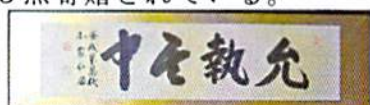
明治5年の「学制」発布により、明治6年8月、当時の太田、渋谷新、島尾の3村が連合して、太田村に小さな学校が開かれた。当初正式な校名はなく、「辰ノ口の学校」等とよばれていたが、まもなく「時習小学校」と名付けられた。明治10年年に、射水郡堀岡新に同名の学校があり、混同を避けるため「改良小学校」と改められた。明治23年の市町村制の実施に合わせ「晴郷小学校」と改められたが明治28年、県訓令により「晴郷」などの雑名が廃止され、校名は町村名を用いることとなり、「太田尋常小学校」となった。その後、太田小学校の名前が校名として用いられている。

教育目標

豊かな心をもち、高め合い、たくましく生きる児童の育成 (平成19年度～)

我が校の誇り

校区にある国泰寺は臨済禅の道場で、臨済宗国泰寺派の大本山である。稲葉心田館長による書が3点寄贈されている。



校歴

